

2013年10月1日
 柏の葉アーバンデザインセンター

柏の葉アーバンデザインセンターが「2013年度グッドデザイン賞」を受賞 ～公・民・学が連携した新たな課題解決型まちづくりモデルとして評価～

千葉県柏市・柏の葉キャンパス地域を拠点としたまちづくり組織「柏の葉アーバンデザインセンター（略称：UDCK）」は、このたび、当組織の活動および運営スキームが「2013年度グッドデザイン賞」（主催：公益財団法人日本産業デザイン振興会）を受賞したことをお知らせします。

UDCKは、つくばエクスプレス・柏の葉キャンパス駅周辺で進む大規模開発エリアをフィールドに、公共（柏市）、民間（柏商工会議所、田中地域ふるさと協議会、三井不動産株式会社、首都圏新都市鉄道株式会社）、大学（東京大学、千葉大学）が連携して次代のまちづくりを推進するためのプラットフォーム機関です。街に開かれた拠点施設を設け、「公・民・学」の各主体がそれぞれの役割を活かしながら「環境・健康・創造・交流」をテーマに、「学び・提案」から「実践・事業化」、「継続・定着」のサイクルを回す独自性の高いプロジェクトを企画・推進しています。

輻輳化した社会課題に対応するまちづくりは、行政中心の縦割り型でも、地域主導のボトムアップ型でも限界があります。一方で地域には、人材や活動、空間等の資源があります。UDCKは、街に関わる多様な人や組織が分野・立場を超えた「マスコラボレーション」を実現するための新たなまちづくりの仕組みとして、2006年11月に設立しました。

設立後約7年が経過するなかで、大学の研究者や学生、市民、企業、地域の店舗、行政、NPOなどの多種多様なつながりが生まれ、地域活動の広がりとともに、交通・環境・健康等に係る社会実験が拡大しています。UDCKではこれらの活動成果を広く公開しており、2012年度には年間約300件の視察を国内外から受け入れるなど、新たなまちづくりモデルとしてのノウハウの普及・拡大に努めています。また同コンセプトの「アーバンデザインセンター」を全国に展開し、連携ネットワーク拡大を進めています。

<グッドデザイン賞審査委員による評価コメント>

新たな街づくりでは、良質なコミュニケーションによるコミュニティづくりが重要な課題となる。

UDCKでは「公、民、学」が連携し、開かれた街づくりのプラットフォームを創り、全国の他地域とも連携しているところが評価された。次世代の街づくりのモデルケースとして期待したい。



【報道関係の方のお問い合わせ先】

柏の葉アーバンデザインセンター 広報：山中、小林（ブラップジャパン所属）
 TEL：03-4580-9104 MAIL：kashiwanoha@ml.prap.co.jp

<参考資料1> 環境・健康・創造・交流をテーマとした UDCK の主な取り組み

【環境】 持続可能な環境づくりを推進

- 都市開発における自然環境の保全並びに緑の創出に向けた協議・調整
- 各家庭のエネルギー見える化装置導入の推進と省エネキャンペーンの実施
- 市民団体等の連携のもと、地域住民主体で街に緑を拡げる活動を推進



地域住民による植栽ガーデニング活動

【健康】 地域に健康的な暮らしを提供

- 東京大学監修の地域オリジナル体操の考案、並びに地域への普及活動
- 千葉大学が行うシックハウス症候群の研究成果を街の施設に展開
- 健康、農、食、環境をテーマとする千葉大学主催の学習プログラムを展開
- 地域の健康に係る施設を巡るツアーを実施



体と脳に効く「はっばっば体操」

【創造】 街をフィールドに新技術・サービスの社会実験を推進

- 千葉大学が推進する「植物工場」の街なか展開
- 東京大学と柏市が推進する ITS 実証実験の推進
- UDCK の施設を活用した新たな建築技術や環境技術の実証実験



マルチ交通シェアリング

【交流】 地域コミュニティを活性化

- 住民主体のコミュニティ育成プログラムを実施
- 交流とまちづくり参画を促す都市型マルシェを毎月実施
- エコ活動やボランティア活動等で貯まる、地域共通ポイントを導入・運営
- 地域住民が最先端のまちづくりを学ぶ大学連携の学習プログラムを実施



都市型市場「マルシェコロール」

<参考資料2> UDCK の仕組みと役割の概念図

